

パキスタン洪水被災の復興支援カンパにご協力ください！

●JFSAと虹の街について

JFSAは古着や毛布などのリユース事業を行い、パキスタンのスラム地域にある学校「アル・カイルアカデミー」の自立運営を支援しているNPO法人です。生活クラブ虹の街では、2002年から配達便やデポでの衣類・毛布・バッグなどの回収をとおして、JFSAの活動を支援しています。

●洪水被災後のパキスタンの現状について

2022年8月にパキスタンで起きた大洪水では国土の3分の1、住民700万世帯が被災したと伝えられています。アル・カイルアカデミーのあるカラチ市も道路に水があふれ、床上浸水した商店などもありましたが、水は早くに引いて大きな被害には至りませんでした。しかし、パキスタン国内では支援が全く届いていない地域があり、人々の暮らしの再建のために支援活動が必要な状態です。



崩れた家屋と残ったレンガの山

今回のカンパはJFSAをとおして家屋の建設費用、支援活動をおこなうための資金として役立てます。

JFSAより ～洪水被災地 支援活動報告～

アル・カイルアカデミーは洪水発生直後の2022年8月下旬に被災地に行き、集まった寄付金で食糧、毛布、テント、蚊帳（マラリヤやデング熱を媒介する蚊から身を守るため）の配布、アル・カイル医療センターの医師たちによる現地診療を行いました。支援活動には、学校のスタッフとともに高学年の生徒が参加しました。その後も支援活動と調査を続け、支援の全く届いていないシンド州ダドゥ地区ブンド村の人々に出会いました。村人たちは家があれば村にとどまって生活ができ、それを望んでいました。被災地では国内外のNGOが食糧支援を行っていましたが、家屋の建設は援助がなく、人々はわずかな家財道具とともにテント暮らしを続けていました。2010年にも起きた洪水の後には、家を失った人々がカラチ市に移り住みました。今回も生活のつてを失った多くの農民たちは大都市カラチに移動し、きびしい暮らしをすることになるだろうといひます。



水没した農地を小舟で渡る

2022年11月には、JFSA理事長と理事1名が被災地を訪問しました。洪水から3ヶ月が過ぎていましたが、農地は水没した状態で人々は小舟を使って移動していました。帰国後にアル・カイルアカデミーから、村人の協力を得て家屋の建設に取り組むことを決めて、ブンド村にモデルハウスを作ったと報告がありました。崩れた家の残ったレンガなども使い、村人も建設に協力して1軒約20万円で作れたそうです。JFSAでは、2010年の洪水被災復興支援カンパ金の残金300万円余りを家屋の建設費用に充てるために送金しました。



家屋の建設中

ブンド村には150家族が暮らし、再建が必要な家屋は125軒あります。

2023年5月までにJFSAからの資金と他の寄付を合わせ30軒の家屋が作られ、最も厳しい状況にある家族が入居しました。村は夏期の気温が50度を超え冬期は4度になる気候の厳しい地域にあり、あと95軒の家屋が必要だといひます。そのためにJFSAの協力を求めています。

突然の災害で多くを失った村人は、公的な支援を受ける事もなく、また助けを得られる期待もなく日々を過ごしてきました。そんな中でアル・カイルアカデミーと出会ったことで、再び自信と敬意を持つことができたことに感謝しているといひます。

アル・カイルアカデミーではこの支援活動を通じて、生徒やスタッフがこれまで知らなかった農村の人々の暮らしを知り、困った人を助けることに意欲を持って取り組んでいることに大きな意味があるといひます。

洪水被災地を訪問した生徒の言葉

アーマッド 9年生(13~14歳)

村に着いたときに私はショックを受けました。すべての場所に破壊の跡がありました。村人たちは被害を受けた家屋から使えるものを探していました。私たちは毛布や食糧を配りました。彼らの喜ぶ様子は言葉では言い表せないほどでした。私はまた助けに来たいと望んでいます。もし、アル・カイルがこの村で教育や医療の施設を整えることを決めたら嬉しいです。



村人から話を聞き取る生徒たち

ナディーム 10年生(14~15歳)

村の中に座っている人々は本当に助けを必要としていました。彼らには子供たちに食べさせるものが何もありません。この辺鄙な村には誰も救援に訪れていません。もしアル・カイルがこの村で働くために私を再び選んでくれたら、私は幸せです。アル・カイルはきっとこの村で救援活動を続けると確信しています。

ジャナイド 10年生(14~15歳)

彼らは困っているので助けが必要です。彼らは汚染された水のせいで皮膚病に苦しんでいます。アル・カイルは優先的に医療援助を提供するだろうと思います。私は、彼らを助けるためにまた訪れたいと思っています。

トヒード 9年生(13~14歳)

人々が助けを必要としているのに、助けを提供してくれる人がいないのは残念です。彼らがこのような悲惨な状況でどのように時間を過ごしているかは、本当に言葉では説明できません。教育施設を提供するために、この村にアル・カイルのキャンパスを開設することが私の提案です。住宅再建計画は、村人が必要としている避難所を用意できる優れた計画です。

●カンパの申し込み方法

一口500円です。

①注文書、②eくらぶ、③虹の街 HP、④ちらしのいずれかの方法からお申し込みください。8月または9月分の請求と一緒に引き落としされます。(申し込み方法と時期で、引き落とし月と申し込み月が異なります。)

※複数の方法でカンパ申し込みされる方は合算して引き落としされます。(例：ちらしで1口、HPで2口の申し込みの場合、3口分が9月に引き落としされます。)

※カンパ金は非課税・割戻し対象外です。

※このカンパは税制上の優遇措置の適用対象外です。

① 個人注文書の場合 (引き落とし：8月または9月)

7月4回(7/10~7/14配布)~9月1回(8/21~8/25配布)の注文書裏面の

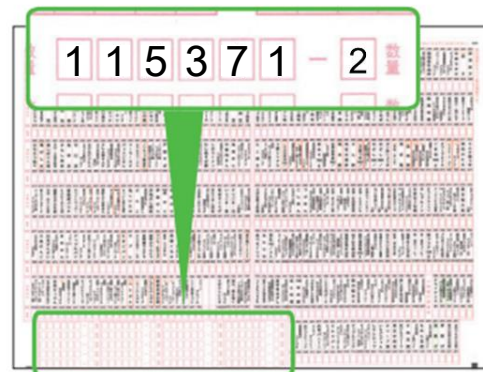
6桁番号記載欄へ『115371』と数量(申込口数)記入してください。

期間内であればどの週でもおなじ番号でカンパの申込みができます。

※右図は、2口申込(1,000円)の場合の記載例です。

※ 7月4回・8月1回の申し込みは8月引き落とし、

8月2回~9月1回の申し込みは9月引取です。



裏面

② eくらぶの場合 (引き落とし：8月または9月)

7月4回~9月1回のトップページから『番号で注文』を選択し、

注文番号記載欄へ『115371』と数量(申込口数)入力してください。

期間内であればどの週でもおなじ番号でカンパの申込みができます。

※ 7月4回・8月1回の申し込みは8月引き落とし、

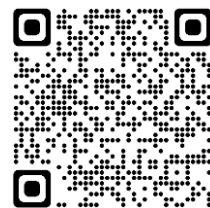
8月2回~9月1回の申し込みは9月引き落としです。



③ 虹の街 HPの場合 (引き落とし：9月)

右記二次元コードを読み取り、または検索エンジンで「生活クラブ千葉」と検索し、

お知らせ欄にあるカンパの申し込みフォームからお申し込みください。(8/25(金)入力〆切)



④ ちらしの場合 (引き落とし：9月)

必要事項を記入、点線で切り取って、配達職員またはデポーへ提出してください。(8/25(金)提出〆切)

パキスタン洪水被災 復興支援カンパ 申込書

組合員名 [_____] 組合員コード [_____]

カンパ口数 1口 500円 [_____] 口 (8/25(金)提出〆切) 組織部宛

※いただいた情報は適切に管理し、生活クラブ千葉の事業と活動のみ使用します

職員記入欄： (_____)センター/デポー (_____)コース 担当： _____ 回収日：(_____)